

講師

松井勅尚氏

(木育実践研究者
元岐阜県立森林文化アカデミー教授)

吉田理恵氏

(ぎふ木育推進委員
岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師)

日時：令和7年1月18日(土)10時～16時
19日(日)10時～16時

場所：山形県庁12階会議室

参加：スキルアップ講座修了者15名
(内新規9名)

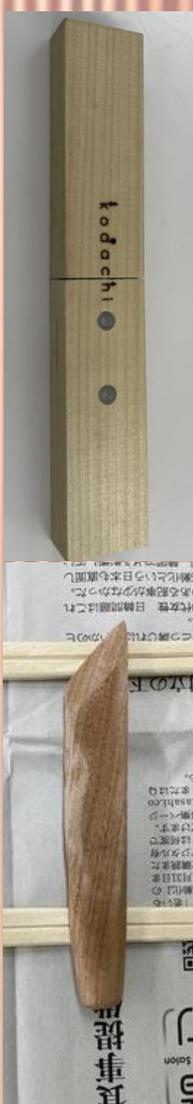


やまがたの目指す木育を達成するための「やまがた木育プログラム」を広く啓発・推進できる人材養成を目的に「やまがた木育人材養成講座」が開催されています。その講座の中でも最も進んだ段階であり、各地域で自ら「やまがた木育」の啓発活動ができる人材の養成を目指す講座【ハイパースキルアップ】がこの度開催されました。

①やまがた木育のミッション
講座の始めに、目的である「ミッション」と、それにとどり着くための目標である「ビジョン」の区別を明確化し、やまがた木育のミッションについて考えました。そして、「県民の誰もが森林・自然に対する正しい知識・関心を持つ」「山形の森林・自然への愛着、やまがた愛をもってもらう」ことを提唱し、講義に取り組みました。



やまがた木育人材養成講座
【ハイパースキルアップ】



② 小刀の使用体験

小刀を用いる体験として、「木のナイフ」づくりを行いました。木材の基礎知識のおさらい・刃物についての様々な知識の学習から始め、切削による形作り、小刀の研ぎ等を行って、和菓子を作る時の菓子切りとして使えるナイフを作り上げ、使い勝手を試しました。小刀は古来木材加工に使われていて、木育に先進的な他県では未就学の多くの子が小刀を用いた木材の切削を危なげなく実施できているとのこと。木に触れて慣れ親しむ、体感して理解したただために、小刀による木の切削は特に有効な体験です。

③ 企画作成

小刀の使用体験と並行して、参加者には二人一組となってもらい、小刀を使用するやまがた木育プログラムの企画作成に取り組み発表してもらいました。クロモジの香りなど加工する樹種の特徴に着目したり、木彫り人形から焚火の着火素材等、作成物についても多岐にわたる多様な企画ができ上がりました。中でも特に評価されたのが、さくらんぼ剪定枝を用いた、スノーボード状のアイスヘラづくりの企画でした。評価点は「県民にやまがた愛をもってもらう」というミッションに対し、蔵王等の山形の雪深い自

④ 講座総括

然を印象付けるスノーボードの形状としつつ、山形県の木であり、県民に馴染み深いさくらんぼの木を用いたことが特に合致している、ということでした。

企画への評価も終え、他受講者の作り上げた企画をぜひ自らの木育に取り入れたい、また、考えた企画を組み合わせて行いたい、といった意見を交わしました。そして「ミッション」を意識して取り組むことを改めて学び、やまがた木育の指導者としてステップアップして講座を終えることができました。



参加者の感想

- 企画作りに対しアイデア出しや理由付けに意識が向くあまり、地域特性ややまがた愛の視点が抜けていたと反省した。
- 何をめざしてつくるのかということの原点に帰ることができてよかった。
- 「やまがた」である理由・意味をもう少し入れて考えられればよかった。コラボ事業などぜひやりたいと思いました。